

外郭団体ミッション遂行評価票

【令和2年度取組結果】

団体名	北九州高速鉄道 株式会社
-----	--------------

所管課	建築都市局 都市交通政策課
-----	---------------

団体に対するミッション
公共交通機関として重要な役割を担う北九州モノレールの安全・正確・快適な管理運営を行うとともに、経営を安定化させる。

行財政改革大綱における見直し内容
沿線の少子高齢化等の進展による利用者数の減少や車両等大規模設備の更新など、今後も厳しい経営状況が見込まれるため、応分の受益者負担等も含め、中長期の経営計画を策定し、それに基づき、経営の安定化を図る。

ミッションに基づく中期計画								
3~5年後に目指す状態	令和1年度策定の「北九州モノレール新中期経営計画（R2~R6）」に基づき、安定した経営基盤の強化を図る。							
主な成果指標	年度ごとの目標及び実績（太枠は最終目標年度）							
	H28	H29	H30	R1	R2		R3	R4
	実績	実績	実績	実績	目標	実績	目標	目標
運転事故の件数	0件	0件	0件	0件	0件	1件	0件	0件
経常黒字化への取組み（経常利益の確保）	△41 百万円	46 百万円	91 百万円	4 百万円	52 百万円	△347 百万円	215 百万円	新型コロナウイルス感染症拡大による影響から、中期経営計画の見直しを行う 予 算
輸送人員（人/日）	32,995 人	33,930 人	34,204 人	33,883 人	33,894 人	24,389人	27,253人	

ミッションの遂行状況の評価（令和2年度）			
団体における評価	<p>当期も引き続き、保安設備等の更新や教育訓練を計画的に実施し安全・正確・快適な運行に努めた。10月28日には開業からの輸送人員が4億人に到達し達成イベントを実施した。</p> <p>また、中期経営計画の初年度である当期は、本計画の基盤となる年として、UR都市機構と包括連携協定を締結する等、地域との連携に積極的に取り組むとともに、種々のコスト削減策による人件費や修繕費の削減等に努めてきたが、新型コロナウイルス感染症拡大により営業収入が大幅に減少し、経常損益は損失を計上した。</p> <p>運転事故は、ホームにおいて未成年の酔客が、列車の先頭車両が通過した後、自ら列車側面に頭部を触車したもので、故意による防ぎようのない事故で当社に瑕疵がないことを国土交通省九州運輸局も結論付けている。</p> <p>しかし、列車のホーム進入時は、お客さまの位置をより注意深く確認するとともに、列車待ちルールを喚起する看板や放送の内容を変更するなど、さらなる事故防止対策を講じることで、お客さまに安心してご利用いただける環境を整備することとした。</p> <p>今後、車両等の大規模な設備更新を控え、新規技術の導入や設備スリム化を視野に入れた検討を進めている。</p>	市の評価	<p>運転事故の防止に関しては、引き続き公共交通機関として安全・正確・快適の維持に努めていただきたい。</p> <p>また、当期については、新型コロナウイルス感染症拡大で、経常利益及び輸送人員の目標達成には至らなかったが、このような状況の中でも、UR都市機構との連携を図るなど、中期経営計画に基づき様々な取り組みを進めていただいていることは評価できる。</p> <p>コロナ禍の大変厳しい状況ではあるが、中期経営計画に着実に取り組みつつ、経営基盤の強化に努めていただきたい。</p>
	今後の課題及び見直し内容（案）		<p>令和元年度策定の「中期経営計画（R2~R6年度）」については、新型コロナウイルス感染症拡大によるビジネス環境の変化や設備更新計画の策定と合わせ、その資金確保の方策等の課題を整理したうえで見直しを行い、安全安定輸送を確保するとともに経営の安定化を図る。</p>

その他～「行財政改革大綱における見直し内容」の取組み状況	
見直しの分類	特に経営状況を注視する団体
<p>新型コロナウイルス感染症拡大による営業収入の大幅な減少に対応するため、乗車人員並びに収入増施策として、地域との連携に積極的に取り組むとともに、固定費等のコスト削減に努めた。</p>	